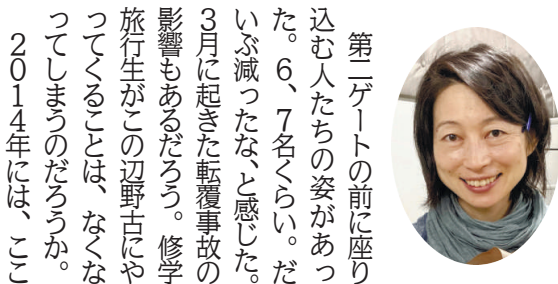


すいそう



第二ゲートの前に座り込む人たちの姿があった。6、7名くらい。だいたい減ったなと感じた。3月に起きた転覆事故の影響もあるだろう。修学旅行生がこの辺野古にやってくることは、なくなってしまうのだろうか。2014年には、こ

ジュゴンの海
五戸真理枝(演出家)

沖合に船を出して見守る仕事もあり、いいお金になるという。「国は当初3500億と見込んでたけど、2.5兆の試算が出てきた。それだけの金が辺野古に落ちるってことだよ。この町はこれからすごいよ」と話す人もいた。地域には、さまざまな形でお金が入っていると。老人会での旅行が企画されたり、伝統行事に使われたり。公民館には、トレーニングマシンは、トレーニングマシン



無意識のたまもの月。赤いバンダナで全体がきりりっと。毎朝見るよ! ベランダ。アボカドの木。クリナム。無意識という意識が

●本田葉子さんの新著『70歳一人暮らし、ふだん着おしやれが日々の杖』(隔月掲載) 9月16日発売(幻冬舎)1500円+税

考えなくてもいい?

るわけにはいかない。猛暑でスミレがやられてから、空っぽの大鉢がなんだかきみしい感じ。そうなのだ! やっぱりベランダ園芸は毎日の楽しみの一つになっていると思う。大鉢にまた寄せ植えしてみたい気持ちがムクムクと湧いてきた。残暑の中、保冷剤をバンダナに包んで首に



代田知子さん 子どもの本 大人もぜひ!



ぼくたちは、あらそうために生きるのか? 山極寿一 文 あべ弘士 絵 (小学校中学年~)



新聞記者、伝承者になる! 被爆者にたくされた「空白の10年」 中塚慧 著 (小学校高学年~)



友だち禁止の放課後クラブ 麦野圭 作 かわけろう 絵 (小学校中学年~)

8月。ぜひ読んでほしい本がある。『ぼくたちは、あらそうために生きるのか?』という絵本だ。ゴリラ研究の第一人者である世界的霊長類学者が、700万年前から続くヒトの進化の歴史をたどり、鋭い牙も爪も持たないヒトが生き延び世界に広がることのできたのは、互いに思いやる「共感の力」で助け合ってきたからだと言く。その気持ちや大事にすればもっと平和な世界がつかれるはずだ。自然の中で仲間と暮らすゴリラやヒトを描く力強く温かい絵が、胸にズシンとくる。なぜ争うの? 止めようよ、という思いがこみ上げる。

次は、新聞記者として働きながら、2023年から広島市の被爆体験伝承者として活動する著者が綴る『新聞記者、

伝承者になる! 被爆者にたくされた「空白の10年」。広島市の原爆被害や被爆者たちの戦後、伝承者になる方法などを紹介。日本原水爆被害者団体協議会のノーベル賞受賞、核兵器禁止条約など、核兵器をめぐる「今」を伝え、1945年8月6日の原爆投下後、被爆が原因の健康被害があることを国が認めなかったために、被爆者が差別や病気に苦しんだ「空白の10年」についても伝える。読みやすく高学年から読めそうだ。

最後は『友だち禁止の放課後クラブ』。パパが病死し、ママの実家近くで暮らし始めた小4の「ぼく」。友だちができないまま、古くてうす暗い「放課後クラブ」に通い始める。入会条件は「絶対に友だちを連れてきてはいけない」。怪しすぎる! 夏にはこんな本もぜひ。

エベレストは居酒屋です

渡邊直子

「無言館」のうた

窪島誠一郎

著者は2024年に日本女性として初めてヒマラヤ8000メートル峰14座を完登した。看護師として身につけた経験が命を守る支えとなり、シェルパと信頼に立ち寄るような息抜きの場所でもあると。好きなことを見つけたときに人は人生を豊かに生きることができると教えてくれる。



1997年5月に建設された戦没画学生慰霊美術館「無言館」(長野・上田市)には、日本が起した戦争に出征し、戦死した若い画家たちの絵や彫刻などが展示されている。召集令状一枚で戦場に駆り出されていなければ、たくさん作品を生み出したであろう若者たちの「未来」を無残にも奪った戦争とは何だったのか。本書には48人の画学生一人ひとりの作品と物語、人となりを描くことへの情熱が描かれ、若すぎる没年に胸が苦しくなる。

編集部から

1面、新婦人なごが各地で補聴器補助の実現へ粘り強く活動する姿に希望を感じました。同時に、当